

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 広島市立畑賀小学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒736-0088  
広島市安芸区畑賀丁目28番16号  
E-mail hataka@e.city.hiroshima.jp  
Website http://www.hataka-e.edu.city.hiroshima.jp/  
児童数 男子 102 名 女子 106 名 合計 208 名  
児童の年齢 6 歳 ～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

#### 1 畑賀小学校のESD構想

##### (1) 畑賀小学校のESDの特徴

畑賀小学校のESDの特徴は、ESDを地域の人とつながりながら展開する点である。『郷土を愛し、郷土に学ぶESD』（郷土に誇りと愛着を！！）をキーワードとして、

- ・身近なところから取り組み、「持続可能な社会」づくりの担い手となる児童の育成
- ・各種の取組を通して、郷土愛の中で育つ学校づくりの推進を大きな目標として取り組んでいる。

◎畑賀小学校にとってESDとは、自分たちの生活している地域を知り、そのよさを認識して地域との共生を目指す態度の育成であり、ESDの活動を通して自己有用感や自己肯定感を持たせ、未来の担い手としての育みを目指している。

## （２）畑賀小学校の児童に育成すべき力

ＥＳＤで育成すべき力は主に、①批判的に思考して、判断する力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的、総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦責任を重んじる態度 などが挙げられるが、本校では⑤の「他者と協力する態度」と⑥の「つながりを尊重する態度」の育成に重点を置いている。

## ２ 畑賀小学校の主な取組

### （１）地域と連携した各学年での取組

#### ○第１学年

##### 「昔遊び」

- ・地域の長寿会との連携で、昔遊びを教えていただくことで交流を図る。

##### 「幼保小昔遊び」

- ・保育園や幼稚園の園児を学校へ招き、長寿会の皆様に教えていただいた昔遊びを発信することを通して交流を図る。



#### ○第２学年

##### 「いきものランド」

- ・生活科で学習した生き物について、１年生に発信することで交流を図る。

##### 「まちたんけん」

- ・学校の周りを探検し地域の良さを知るとともに、地域の様々な人とふれあい、交流を図る。

##### 「人権の花」

- ・地域の人権擁護委員の方を講師に、人権についての理解を深める。



○第3学年

「パンジーの栽培」・・・平成11年度より開始

- ・ 社会福祉協議会との連携でパンジーを栽培し、地域や一人暮らしのお年寄りに配る。（「花のプレゼント」）



○第4学年

「美しい畑賀川を守ろう ～リバーレンジャー 12～」

・・・平成18年度より開始

- ・ 「瀬野川ホタルの会」と連携し、川の水質検査をしたり、ホタルを飼育したり、川の美化活動を行ったりする。



○第5学年

「米づくり体験をしよう」・・・平成25年度より開始

- ・ 地域の方を指導者としてお招きし、校内にある田んぼで米づくりを行う。

「薬についての学習」

- ・ 学校薬剤師を講師に、薬についての学習を深める。





○第6学年

「租税教室」

- ・地域の方を講師としてお招きし、税についての学習を行う。

「薬物乱用防止教室」

- ・学校薬剤師を講師に、薬物乱用防止についての理解を深める。

「福祉教育」

- ・卒業生の保護者を講師としてお招きし、障害を持つ方についての理解を深める。
- ・地域にある「障害者支援施設」の見学を行い、障害を持つ方についての理解を深める。



(2) その他の取組

○クラブ活動

「神楽クラブ」

- ・地域の方を指導者としてお招きし、昔から伝わる「畑賀神楽」を教えていただき、学習発表会（「はたかフェスタ」）や敬老会で披露する。



○「和太鼓・鼓天童子」での練習への参加と地域福祉祭りでの発表。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他( 責任を重んじる態度 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特にありません。
----------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

- ・各学年の取組を、１～２年生は生活科、３～６年生は総合的な学習の時間の指導計画に位置づけ、他の教科とも関連付けながら指導方法の工夫改善に努めている。
- ・「畑賀小学校におけるＥＳＤの基本方針」や「年間活動カレンダー」を作成し、目的、児童に育成すべき力、各学年の取組とＥＳＤの構成概念との関わり、活動内容などを全教職員の共通意識のもと取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

- ・校長の示す学校経営計画における、「開かれた学校づくり」の領域の中に短期経営目標として「ＥＳＤのねらいを踏まえながら、畑賀の環境を生かした取組に、地域・保護者の方が参加・参画した学校行事や体験活動を行う」と明示するとともに、目標に関わる評価指標・評価基準を定め、努力指標（教師側）と成果指標（到達すべき子供の姿）の両面から、中間評価と年度末評価を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

- ・前述の努力評価（教師側）をもとに、教職員で成果と課題を分析した。
- ・学校協力者会議（第三者評価）における意見や、児童アンケート、保護者アンケートの結果をもとに成果と課題を分析した。
- ・成果としては、地域の方や保護者が学校を知り、そして理解してくださり、それならば協力しよう、一緒に参加しようという姿勢になってきた。つまり今まで「無関心」であったのが「参観」の意識に変わり、そして「参画」の意識に高まってきた。今までは学校から指導の依頼を行うのがほとんどであったが、最近では地域の方から、「俳句の指導ができますよ。」「特別支援教育について話をしましょうか。」などの声をかけてくださるようになってきた。
- ・一方で課題としては、活動における指導者の確保が年々難しくなっていることである。地域の方々も年々年を重ね、高齢化しているので、指導者としてお手伝いしていただくのが難しい。特に専門性を要する取組については、指導者の後継者がなかなか見つからない。それだからこそ、持続可能な取組になるよう、地域との連携を続けながらも、学校主導で進めていくことの必要性を感じる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

- ・「学校ホームページ」「学校便り」「校長室便り」「学習発表会」「学級懇談会」「学校協力者会議」等で地域や保護者に取組の様子を発信した。
- ・「学習発表会」には保護者はもちろんのこと、地域の方々もたくさん来校され、子供たちの活動を参観された。このことで、今後も地域と学校とがしっかり連携し、伝統あるいろいろな取組を続けていこうという意識が高まっている。
- ・「瀬野川ホタルの会（年間８回）」には校長が参加し、ホタルの飼育について地域の方と情報交換を行った。また「瀬野川サミット」には４年生児童が参加し、「美しい畑賀川を守ろう」の取組を発表した。この発表の効果として、畑賀小学校区だけでなく、瀬野川が流れるすべての地域の方々へ、環境美化推進における発信ができたことが挙げられる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

- ・特にありません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

- ・特にありません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

- ・一つ目は、自分たちの取組が地域の役に立ち、地域の方々にとても喜んでもらえる、また「よくがんばったね。」「すばらしかったよ。」「うれしかったよ。」と褒めていただくことが増え、それが児童の「自己有用感」や「自己肯定感」の向上につながっていると感じる。1年生と2年生は、地域の方々に「元気をもらったよ。」と声をかけていただきとても嬉しそうであった。3年生は栽培したパンジーをお年寄りや地域の施設に届けたが、とても喜んでもらえて照れくさそうであった。4年生の取組のおかげで、地域の方々も川にゴミを捨てることが少なくなり、美しい畑賀川が戻った。そして昔のようにホタルが増えたことが、地域の「ホタル祭り」の開催につながった。5年生はPTC活動で作ったおはぎを、全児童に配りとても喜んでもらった。6年生は、学校のすべての行事で中心的な役割を持ち、下学年のお世話をすることで、みんなの役に立っていた。いろいろな取組が、すべての学年で多くの人の役になっていることを感じるよい機会となった。そして地域のすばらしさや学校のすばらしさを再確認することで、自分たちの住んでいる地域や、自分たちの生活している学校に対する自信や誇りが芽生え、それが地域を愛し、学校を愛し、自分を愛する自尊感情につながっていると感じる。
- ・二つ目は、行事や取組を通して、お互いの考えや行動を尊重し、対等なそして良好な人間関係が育ち、けんかが少なくなりいじめも大幅に減った。これから、相手を認める人権意識が高まったと考えられる。実際に、トラブルが原因で保健室へ行く児童の数が、昨年度に比べて7割以上減少し、問題行動や欠席する児童も、昨年度に比べてずいぶんと減少した。

### （3）平成30年度の活動計画

#### （1）これまで取組の継続

- ・1～6年生の学年による取組の継続
- ・神楽クラブの継続

#### （2）新たな地域との連携

- ・地域にお住まいの歯科衛生士さんによる「歯磨き指導」
- ・地域にお住まいのインストラクターによる「電子メディア講習会」
- ・地域の俳句グループによる「俳句教室」
- ・地域にお住まいの方による「茶道・華道教室」